

# 稲葉健二の ひと言メッセージ



稲葉健二後援会  
市川市八幡2-2-10  
TEL333-1783  
FAX334-1990

稲葉健二は、  
皆様のご意見・ご要望を  
お待ちしております。  
お気軽にご連絡ください。

内部  
討議  
資料

皆さん、こんにちは。市川市議会議員の稲葉健二です。

私の地元、八幡における3年に一度の大イベント「やわたまつり」も、皆様方のご協力により、大変な盛り上がりの中、無事に終了いたしました。ご協力いただいた皆様に、心から御礼申し上げます。

さて、この9月に開会された定例会におきまして、一般質問をさせていただきました。関係者の方々より真摯にご答弁をいただき、行政と協力し、よりよい市川市を目指す決意を新たに致しました。

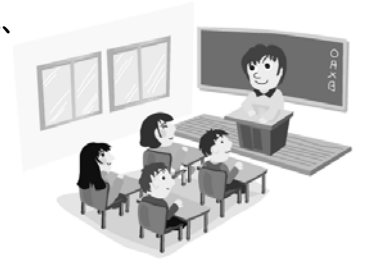
## ○小中学校のバリアフリー化について

いろいろな形で地元の小学校や中学校に関わってきた経験から、やっぱり稲葉健二が一番気にかかること、子どもたちの事です。

私の知り合いの方で、ご息さんが脳性麻痺の方がおります。中学校を市内の公立中学校で過ごしました。普段はいいのですが、特別教室に移動する際には保護者の方の協力が必要ということで、週に数回、保護者が学校に出かけなければなりません。もし、学校にエレベーターがあれば、自力で教室移動ができたそうです。現在、このようなハード面でのバリアフリー化した学校が数校あるにはあります。

ハード面中心に話を進めてまいりましたが、ソフト面も大事な事だと思います。学校側が児童・生徒たちに対して、そのような子どもたちをどのように受け入れ、一緒に学んで行くべきかを教えて行く事が大切だと思います。

小中学校セットで、ハード面でバリアフリー化した学校にソフト面での充実を加えたモデル校を設置する必要があると思います。そして全校をとというのは、予算の問題など現実的には無理だとは思いますが、地域的に設置することにより、多少、登下校に頑張れば、地域の小中学校に通える、そんな環境を整えてあげたいと思います。



## ○本八幡A地区市街地再開発事業について

以前にも何度かご質問をさせていただきました「本八幡A地区市街地再開発事業」。中央通りと京成線、アクス本八幡、国道14号に囲まれた、八幡横丁商店会のある区域です。

計画も順調に進み、その進捗状況は、平成18年度「再開発組合設立認可」、平成19年度上半期「権利変換認可」、後半「工事着工」、平成22年度「完成」を目指しています。

この事業によって、再開発事業地区内、周辺地域の課題の多くが解消される、このことが再開発事業の最大の効果であり、公共貢献であると考えられます。例えば、国道14号、駅前中央通りなど幹線道路、及び市道のバリアフリー化も含めた歩道の整備。緊急車両の進入・通行のため、周囲の市道の拡幅。再開発区域内に、利用しやすい駐車場・駐輪場の確保。商店会・自治会が自由にイベントなどに使用できる広場の確保。また、土地の効率的利用により商業の活性化、さらに調和のとれた街なみといった上質な都市型環境の提供などなど、中心市街地としての活力を増進させるといった効果も期待できます。

この地元の大事業、再開発区域内の方々、周辺住民の方々、みなさんが満足できる、納得できるように行政と協力して進めて行きたいと考えています。

## ○市川市の緑の支援制度について

市川市には、都市化の進展に伴い減少する緑を保全するために「緑の支援制度」というものがあります。潤いとやすらぎのある緑の街づくりのための支援制度です。

緑地の保全を図るため、緑地の保全協定を締結し、良好な環境を保全するために要する費用を助成したりしています。また、保存樹木協定制度和して、市の木「黒松」や巨木について一定の要件に該当し、協定を締結したものに対して、剪定費用などの助成を行なっています。

さらに、防犯・震災対策といった意味も含めた「生垣助成金」というものもあります。景観にも潤いがあり、安全面でも有効な生垣の設置に対して助成金を出すというものです。

これらの、助成金、緑の保全や緑を増やすといった事が難しい市街地に対して割増制度などが設けられたら、もっと緑の多い潤いある街になるのではないのでしょうか。一考する価値があると思います。

また、市川市では「花の街推進事業」として、花で満たされた潤いある街づくりのために、市民及び事業者の花や苗の配布などをしております。これと同じような形で、市内の公園花壇の管理を利用者によるボランティアで行なっていただき、市は花・苗・種などを配布する、といった活動も進めていき、将来は地域コミュニケーションの核になるような場所にもなれば、防犯上や災害時も重要ではないかと、考えています。